

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意

祛湿剂 芳香化湿剂 1

<p>へいはいさん 平胃散</p>	<p>燥湿運脾・行気と胃</p>	<p>蒼朮 15g・厚朴 9g・陳皮 9g・甘草 4g 細末にし1回6gを大棗・生姜の煎湯で服用する。大棗・生姜を水煎し服用してもよい。</p>
<p>和剂局方</p>	<p><主治> 湿困脾胃 腹満、胃部の痞え、食べたくない、味がない、悪心、嘔吐、暖気、呑酸、肢体が重だるい、眠くて横になっていた、泥状便～下痢傾向、舌苔は白膩で厚、脈は緩などを呈す。</p> <p><病機> 湿邪が中陽を困阻した状態で、飲食不節や外湿の侵襲によって発生する。 湿邪が気機を阻滞するので腹満、胃部の痞えが生じ、胃気の通降を阻んで上逆させると悪心、嘔吐、暖気、呑酸がみられる。湿困脾胃で運化が失調すると、食べたくない、泥状便～下痢傾向を呈する。湿濁により清陽が上昇できず、眠い、横になっていた、味がないなどが生じ、湿邪が肢体筋肉に溢れると身体が重だるく感じる。湿盛のために舌苔は厚膩を呈し、化熱しない間は白色である。湿邪が脈気を阻滞するので脈は緩になる。</p> <p><方意> 燥湿運脾により困阻された脾胃を振奮させる。 苦温燥湿の蒼朮が主薬で、大量に用いて湿邪を除き運脾する。苦温の厚朴は行気化湿、消脹除満に、辛温の陳皮は理気化湿に働き、蒼朮を補助する。3薬共に芳香を有し、醒脾調中にも作用する。甘草・生姜・大棗は脾胃を調和し、胃気を和降させる。全体で湿濁を除き、気機を暢調して脾胃を健脾する。</p> <p><参考> 本方（平胃散）は湿困脾胃に対する常用方である。辛香温燥の薬物がほとんどであるから、寒湿に偏して白苔を呈する場合に最も適するが、適宜に加減すると広く使用できる。</p> <p>加減法 食滞が明らかで、食べたくない、暖気、舌苔の厚が顕著であれば、神麴・麦芽・山楂子などを加える（楂麴平胃散）。 食滞で腹満、便秘を呈するときは、檳榔子・萊菔子などを加える。 痞え、腹満がつよければ、甘草を除き枳実を加える。 悪心、嘔吐がつよければ、縮砂・木香などを加える（香砂平胃散）。 寒湿が顕著で、腹痛、冷え、舌苔が白滑を呈するときは、乾姜・肉桂などを加える。 湿鬱化熱し、口が苦い、舌苔が黄膩、脈が滑などを呈するときは、黄连・黄芩などを加える。</p> <p>日本での保険適応効能、効果 胃がもたれて消化不良の傾向のある次の諸症；急・慢性カタル、胃アトニー、消化不良、食欲不振</p>	
<p>いれいとう 胃苓湯</p>	<p>燥湿運脾・利水止瀉</p>	<p>平胃散合五苓散 水煎し服用する。</p>
<p>証治準繩</p>	<p>主治は湿困脾胃で、下痢が顕著な状態に用いる。 本方（胃苓湯）は、平胃散に淡滲利水の五苓散を加えて、分利する（利小便によって大便を固める）。 湿熱の場合には、更に茵陳を加える（茵陳胃苓湯）。 悪心、嘔吐、腹満が強いときには、更に藿香・半夏を加える（七味除湿湯）。</p> <p>日本での保険適応効能、効果 水瀉性の下痢、嘔吐があり、口渴、尿量減少を伴う次の諸症；食あたり、暑気あたり、冷え腹、急性胃腸炎、腹痛</p>	
<p>さいへいとう 柴平湯</p>	<p>和解少陽・祛湿和胃</p>	<p>小柴胡湯合平胃散 水煎し服用する。</p>
<p>内経拾遺方論</p>	<p>主治は、湿瘧による全身関節痛、四肢が重だるい、寒多熱少（悪寒がつよく発熱が軽い）、脈が濡などの症候。 本方（柴平湯）は、和解少陽の小柴胡湯と化湿の平胃散で熱邪を透解し湿邪を除く。</p>	